

誰もが働きやすい職場づくり ～職員のメンタルヘルス促進を通して～

令和6年6月11日（水）、市内幼稚園、小・中学校、学校給食センターの管理職を対象に、「誰もが働きやすい職場づくり」をテーマに研修を行いました。この研修は、メンタルヘルスに関する管理職としての役割や不祥事を起こさない風通しのよい心理的安全性の高い職場づくりについての理解を深め、管理職としての資質・指導力の向上を図るために行いました。



講師は公立学校共済組合九州中央病院で心療内科部長及びメンタルヘルスセンター長をされている河田 浩先生です。

「メンタルヘルスに関する基礎知識」、「管理職の役割」、「風通しのよい職場づくりに向けて」の3つの柱で話をいただきました。後半は先生方の協議を取り入れていただきました。



「誰もが働きやすい職場環境をつくるためには、どのようにしたらよいでしょうか？」

明るい挨拶をする、ミスをフォローし合う、一緒に何かを創る、業務を減らす、地域の力を借りる等たくさんアイデアが出ました。



【参加者の感想等から】

- 「忙しそうなおぶりを見せない。」という言葉にはハッとさせられた。忙しくても、それを表に出さず、誰もが話しやすい雰囲気をつくるのが大切だと思った。
- 「MKK（目配り、気配り、声かけ）」を大切にしていきたい。職員のメンタルヘルスの状況や職場の雰囲気を把握し、必要なアプローチをするためにも、日頃から一人一人の状況をしっかり見ておこうと思う。
- 一番心に残ったことは、実践的傾聴法。「すぐにアドバイスをしない。」ということ。話をよく聞かず、自分の考えを伝えてしまうことをやめようと思った。
- 病休に入った先生が、「あの時話を聞いてもらえばよかった」と後から思うことが多いこと、人が主体的に動き出すのは「自分のことをちゃんと聞いてもらった時」だということが印象に残った。傾聴の姿勢を大切に、話の聴き方を今まで以上に意識していきたい。
- グループの発表を聞く中で、「誰もが働きやすい職場環境をつくる」ための方法はいくつもあることが分かった。よい職場は、つくってもらうのではなく、みんなで（自分たちで）つくっていくという意識を高めることができた。
- 学校が組織として機能し、学校教育目標の実現に向けて教育活動を進めていくためには、風通しのよい職場づくりや個々の職員へのメンタルヘルス支援が大切だと感じた。このことが結果として、休職者数の減少や不祥事防止につながるのだろうと考えた。

何でも言い合え、お互いを尊重できる心理的安全性の高い風通しのよい職場は、病休者の減少や不祥事防止につながっていきます。管理職にとって、これまでの職場づくり、職員の人間関係づくりを見つめ直すことができる研修になりました。